

令和 6 年度 京都長尾谷高等学校 学校評価について

< 目 次 >

- I 令和 6 年度 京都長尾谷高等学校 学校評価
- II 令和 6 年度 京都長尾谷高等学校 学校評価アンケート 概要
- III 令和 6 年度 京都長尾谷高等学校 学校評価アンケート 総括
- IV 令和 6 年度 京都長尾谷高等学校 学校関係者評価 概要
- V 「令和 6 年度 京都長尾谷高等学校学校関係者評価委員会」の意見

I 令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- (1) 一人ひとりを大切にし、自立した学びを続けられる人材を育成する
- (2) 一人ひとりの特性に配慮し、『学びの個別化』に対応した教育
- (3) A I 時代に対応

2 中期的目標

1 学校運営

- (1) 教育課程
- (2) 年間を通じた教育計画の作成
- (3) 教職員間の情報共有と連携強化
- (4) 開かれた学校づくり・情報公開
- (5) 危機管理

2 教育内容・教育の課題

- (1) 情報教育
- (2) 教育体制及び重点目標
- (3) 特別活動・部活動の充実

3 生徒指導・支援

- (1) 生徒支援（学習指導・進路指導）
- (2) 生徒指導・校内巡回の充実

4 教職員研修・資質向上

- (1) 教職員研修
- (2) O J T の効果的活用

【自己評価アンケート結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析

・実施日

教職員 令和6年11月22日(金)～12月27日(金)

生徒・保護者 令和7年 2月10日(月)～ 3月31日(月)

【分析】

＜教職員＞

自己評価アンケートの回答率は100%であり、全教職員の意思が結果に反映されていると考えられる。全項目における肯定的回答（AとB）は97.3%であり、教職員が本校の教育内容全般にわたって高い自己評価をしていると言える。特に、学習指導、進路指導、特別活動、学校説明会の項目は全教職員がA評価をつけており、これらは本校の強みと考えられる。

一方で、国際教育、人権教育、部活動活性化の項目についてはBの回答も多いことから、今後とも、学校全体として改善の余地があると思われる。

<生徒>

全項目における肯定的回答は 85.9%である。学校生活のルール、プライバシーの尊重、この学校で学ぶことが出来て良かったか、という 3 項目はとくに高い評価となっている。

一方で、国際教育や人権教育の項目については、否定的回答も若干みられる。国際教育については、各種外国語科目に加え、総合的な探究の時間においても取り組んでいるところではあるが、限られた時間の中、どうしても英語表現・文法に多くの時間を割かざるを得ず、海外の文化などに関する内容を今後どのようにして充実させていくかは、検討を進めていく必要がある。

人権教育については、ロングホームルームなどの時間も使い、指導に努めているところではあるが、学校生活のあらゆる場面を人権教育の場と捉え、さらなる充実深化を図っていきたい。

<保護者>

全項目における肯定的回答は 81.8%である。生徒評価と同様にプライバシーの尊重についての評価が高く、また、学校説明会に関する項目でも高い評価となっている。一方、進路指導や情報モラルに関する項目では生徒評価に比べ低い結果となっている。進路については、学校掲示や NCC での情報発信、加えて各種進路行事では生徒自身が進路について考える時間を設けているが、目標進路が決定するまで時間がかかる生徒も少なくなく、保護者としては生徒以上に焦りを感じていることもあるのではないかと推察される。進路指導部ならびにチューターからの早い段階からの働きかけを行い、改善を図っていきたい。

情報モラルについては、今やほぼ 100%に近い割合で生徒はスマートフォンを所持しており、SNS 等による危険性は生徒よりも保護者のほうが感じていると推察される。情報科のスクーリングのみならず学校生活の様々な場面を通じて指導を行っていく必要がある。

学校評価委員会からの意見

<学校関係者評価委員>

- ・正木 仁（長尾谷高等学校 前校長）
- ・大内 維人（立命館大学 教職教育推進機構 元講師）
- ・岩見 晃宏（京都長尾谷高等学校同窓会 会長）
- ・井出 光明（藤森学区防犯推進会 会長）

【総括評価】

- ・教職員が連携しながら丁寧な学校運営がなされており、それが生徒・保護者の高い満足度に繋がっているといえる。国際教育や人権教育などの課題もあるが、全体通して質の高い教育活動がなされており、今後も社会のニーズに応えられる学校として活躍に期待したい。
- ・通信制高等学校への期待が高まっている中、単に卒業資格の取得ではなく、多様化する生徒に寄り添った教育を実践されていると思います。京都長尾谷高等学校の更なる発展を期待しています。
- ・生徒の特性に起因するさまざまな課題に対して、教職員が連携しながら丁寧に対応されている点は、学校としての大きな強みであり、高く評価されるべき取り組みである。また、学校説明会の工夫をはじめ、学校生活におけるルールの明確化、生徒指導、特別活動の充実、さらには NCC 等を活用した情報発信など、多岐にわたる活動が生徒・保護者から高い評価を得ていることは、教職員の皆様の熱意と尽力の賜物であり、本校の優れた特色として評価されたい。
- ・多くの生徒さん、保護者さんが本校での学校生活を安心して送れるよう方針を貫いてほしいと思います。

※各項目の詳細については、別添資料「V『令和 5 年度 長尾谷高等学校学校関係者評価委員会』の意見」を参照。

3 令和6年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校運営	(1) 教育課程			
	教育課程内容の検証	ア学習指導要領の対応状況	学習指導要領と教育課程・授業内容との一致	的確に対応した教育課程を編成し授業が行われている
	(2) 教育計画			
	教育計画の充実	教育計画の作成と内容の精選	各教科とも教育計画内容の精選を実施	年間を見通した教育計画を立案し、授業の充実に努めている
	(3) 情報共有と連携			
	ア 教員間の連携	教員間教科間の相互理解に基づく教育活動	相互理解と信頼関係の構築	教員相互が共通理解を図りながら教育活動を展開している
	イ 教員と事務職員間の連携	両者の間での情報共有の機会を増加させる。	相互理解と信頼関係の構築	教員と事務職員間で相互理解に努め教育活動を展開している
	(4) 情報公開			
	ア 学校ホームページの充実	学校ホームページの情報内容の精選と充実	公開情報を日常的にチェックし更新する	内容や更新スピードについて、今後も検討を進めていく必要がある
	イ 学校説明会の充実	説明内容の充実と開催の回数を最低10%増加する。	説明内容を精選し必要な情報を常に検証する	学校説明会において適切な知識や情報が提供されている
	(5) 危機管理			
	危機管理マニュアル	役割の明確化と諸機関との連携	訓練内容の精選と充実	周知徹底や避難訓練等の充実については改善の余地がある
2 教育内容・教育の課題	(1) 情報教育			
	情報能力育成、情報モラル指導	I C T活用能力育成と情報発信モラルの教育に取り組む	授業を含め様々な機会をとらえて指導する	I C T活用能力等の育成についてはあらゆる教育活動を通じた充実が必要である
	(2) 教育体制及び重点目標			
	ア 人間性を培う教育の充実	知性と感性の調和のとれた人間性を育む教育の実践	面接指導の充実が図られている	様々な課題を持つ生徒に対して、引き続き粘り強い指導が必要である
	イ 国際教育の充実	国際的視野に立った判断力・言動力の醸成	他者の人権尊重と価値観の多様性への理解	クアラルンプールやバンクーバーへの語学研修が実施されているが、更なる充実が求められている。
	(3) 特別活動・部活動			
	特別活動・部活動の充実	特別活動の実施内容と部活動指導の充実・活性化	特別活動の参加者数を10%増加させる	多彩な特別活動が提供され、部活動も複数の部が全国大会に出場するなど顕著な成績をあげている。

3 生徒指導・支援	(1) 生徒支援（学習指導・進路指導）			
	ア 学習指導・進路指導の充実	生徒の実態に即した学習指導と進路指導の促進	生徒の実態を表面に現れた事象だけでなくその背景まで考慮しているか	学習指導や進路指導は教職員が生徒のニーズに応じた適切な指導が実践されている
	(2) 生徒指導・校内巡回の実施			
	生徒指導体制の確立	指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察の実施	共通認識に基づいた組織的対応と生徒への積極的な声掛けの実践で問題行動数を10%減少させる	教職員がカウンセリングマインドを持って生徒に寄り添い丁寧な指導が行われており、問題行動は減少傾向にある
4 教職員研修・資質向上	(1) 自己研修・資質向上			
	研修体制の充実	自らの資質向上に努める	自らの資質向上に務めているか	新任教員や事務職員研修等で教職員の資質向上が図られているが、人権教育については改善の余地がある
	(2) OJT			
	OJTの効果的な活用	教職員間での業務遂行の際の良好な連携・協力体制の構築	業務遂行について今教職員相互に関心を持ち、経験者による適宜・適切な助言ができているか	管理職や中核教職員が風通しの良い職場環境を構築し、良好なチームワークのもとで円滑な学校運営が展開されている

4 【自己評価アンケートを踏まえた 令和7年度の改善点】

(1) 進路に関する情報発信

進路については、学校掲示やNCCでの情報発信、加えて各種進路行事では生徒自身が進路について考える時間を設けているが、目標進路が決定するまで時間がかかる生徒も少なくなく、保護者としては生徒以上に焦りを感じていることもあるのではないかと推察される。進路指導部ならびにチューターからの早い段階からの働きかけを行い、改善を図っていきたい。

(2) 国際的視野に立った思考力・判断力の育成

本校にはカナダやオーストラリアへの語学研修制度を有しているが、保護者の経済的な事情により多くの生徒の参加には結びついていない。特別活動や外国語科、地歴公民科のスクーリングなど、学校内の教育活動の中で、いかに国際教育を展開していくか、工夫・改善に取り組んでいく必要がある。

令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価アンケート概要

2024（令和6）年度の学校法人東洋学園 京都長尾谷高等学校の教育活動について、教職員の自己評価と、生徒、保護者に対する評価アンケートを実施した。

教職員用

- ・アンケート内容

学校法人東洋学園の中期・長期経営目標や京都長尾谷高等学校の教育目標等をふまえ、質問項目は20問とした。

- ・アンケート対象者

すべての教員10名と事務総括主任1名の計11名を対象とした。

- ・アンケート回答方法

各質問について、「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中から、あてはまるものを回答する方法とした。

生徒・保護者用

- ・アンケート内容

授業や進路、学校設備、プライバシーの尊重など、学校生活全般に係る質問を計21問設定し、無記名での回答とした。

- ・アンケート対象者

在籍する全生徒およびその保護者を対象とし、生徒104名、保護者102名から回答を得た。

- ・アンケート回答方法

各質問について、「A：よくあてはまる」、「B：ややあてはまる」、「C：あまりあてはまらない」、「D：まったくあてはまらない」の4つの選択肢の中から、あてはまるものを回答する方法とした。

令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙【教職員用】

所属校(京都長尾谷)名前()

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	番号	設 問	評価
学校運営	教育課程	学習指導要領への対応	1	学習指導要領・教育課程と授業内容は一致していますか	
		教育計画について	2	年間を通じた教育計画を精選し、充実させていますか	
	連携	教員間連携	3	教員間、教科間の相互理解に基づく教育活動が行えていますか	
		教員と事務職員との連携	4	教員と事務職員との相互理解が構築されていますか	
	情報公開	学校HPの充実	5	学校HPなど公開する情報は日常的に点検、更新されていますか	
		学校説明会の充実	6	説明内容は精選し、必要な情報を常に検証していますか	
	危機管理	危機管理マニュアル	7	役割の明確化、諸機関との連携、訓練内容の精選と充実はなされていますか	
教育内容	情報教育	情報教育の充実	8	IT活用能力の育成と情報発信モラルの教育に取り組み、これらを授業を含め様々な機会をとらえて指導していますか	
	教育体制	人間性を培う教育の充実	9	生徒指導において人間性を培う教育の充実が図られていますか	
			10	生徒が興味関心を持てるような面接指導(授業)の充実が図られていますか	
		国際教育の充実	11	国際的視野に立った思考力・判断力の醸成の機会を設けていますか	
	特別活動・部活動	充実と活性化	12	特別活動の実施内容は充実していますか	
			13	部活動の活性化を図るため、指導体制は整備されていますか	
・生徒支援指導	生徒指導体制の確立	学習指導、進路指導の充実	14	生徒の実態に即した学習指導・進路指導が行われていますか	
		指導方針の共通理解と丁寧な生徒観察	15	生徒指導方針の共通理解とそれに即した丁寧な指導が行われていますか	
	生徒支援	支援を必要とする生徒	16	特別な支援を必要とする生徒について、各校で把握し全体で取り組んでいますか	
・教資職質員研上修	研修体制の充実	研修体制の充実	17	教職員研修の実施及び研修の成果は共有されていますか	
		人権教育の充実	18	学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育についての指導が行われていますか	
	資質向上	業務遂行の際の連携協力	19	業務遂行について管理職、経験豊富な先輩からの適宜・適切な助言などはもらえていますか	
			20	指導力向上のため、自己研鑽に努めていますか	

【令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙（生徒用）】

より良い学校づくりのためのアンケートにご協力をお願いします。

アンケートの回答は、成績などに関係するものではありません。

次回登校する際、保護者用と共に職員室まで提出してください。（提出期限3月末）

次の各質問について、A～Dのうちあてはまる欄に○印をつけてください。

A:そう思う B:どちらかといえばそう思う C:どちらかといえばそう思わない D:そう思わない

番号	設 問	評価			
		A	B	C	D
1	学校生活は楽しい。				
2	学校は落ち着いて学習できる環境である。				
3	学校の授業はわかりやすい。				
4	先生は授業やレポートのわからない点を丁寧に教えてくれる。				
5	相談や質問など、先生に話しやすい。				
6	先生は学習で努力したことを認めてくれる。				
7	学校生活のルールや生徒指導の内容は、納得できるものである。				
8	学校は、卒業後の進路についての情報をよく知らせてくれる。				
9	先生は、卒業後の進路について丁寧に相談に乗ってくれる。				
10	京都長尾谷への入学前の説明会はわかりやすかった。				
11	学校のホームページやNCCなど、必要な情報はたえず更新されている。				
12	学校は施設・設備について、日々整理・点検を行い学習環境の改善に努めている。				
13	学校は事件・地震・火災などに備えて、避難訓練などを実施し、生徒の安全に注意をはらっている。				
14	国際社会について学んだり、海外の文化について考えたりする機会がある。				
15	命の大切さや人権について学ぶ機会がある。				
16	パソコンなどのICT機器活用能力やSNSなどの使い方(情報発信モラル)について学ぶ機会がある。				
17	特別活動の内容が充実している。				
18	学校は特別な支援・配慮が必要な生徒に、丁寧に対応している。				
19	学校は生徒のプライバシーを守っている。				
20	この学校には他の通信制にはない特色がある。				
21	この学校で学ぶことができて良かった。				

【令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価 アンケート用紙（保護者用）】

学校教育目標にもとづく教育活動や学校運営の状況等について評価・改善を行い、
教育の質を高めることを目的とした学校評価を実施いたします。本校教育の一層の充実・改善
に向け、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

お子様が次回登校する際、生徒用と共に職員室までご提出ください。（提出期限3月末）

次の各質問について、A～Dのうちあてはまる欄に○印をつけてください。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

番号	設 問	評価			
		A	B	C	D
1	お子さんは、学校生活が楽しそうである。				
2	お子さんにとって、学校は落ち着いて学習できる環境である。				
3	お子さんは、学校の授業はわかりやすいと言っている。				
4	教員は、生徒を理解し、親身になって指導している。				
5	教員は、生徒の評価を適切・公平に行っている。				
6	学校は、保護者の相談に適切に応じている。				
7	学校生活のルールや生徒指導の内容は、納得できるものである。				
8	学校は、卒業後の進路についての情報をよく知らせてくれる。				
9	教員は、卒業後の進路について丁寧に相談に乗ってくれる。				
10	京都長尾谷への入学前の説明会はわかりやすかった。				
11	学校のホームページやNCCなど、必要な情報はたえず更新されている。				
12	学校は施設・設備について、日々整理・点検を行い学習環境の改善に努めている。				
13	学校は事件・地震・火災などに備えて、避難訓練などを実施し、生徒の安全に注意をはらっている。				
14	学校は、国際社会や海外の文化についての学びの時間を設けている。				
15	学校は、命の大切さや人権についての学びの時間を設けている。				
16	学校は、ICT活用能力や情報発信モラルについての学びの時間を設けている。				
17	特別活動の内容が充実している。				
18	学校は特別な支援・配慮が必要な生徒に、丁寧に対応している。				
19	学校は生徒のプライバシーを守っている。				
20	この学校には他の通信制にはない特色がある。				
21	お子さんは、この学校で学ぶことができて良かったと言っている。				

Ⅲ 令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価アンケート総括

教職員アンケートについて

全回答数 220 回答（20 項目×11 名）の内訳

A : 169 (76.8%) B : 45 (20.5%) C : 6 (2.7%) D : 0 (0%)

肯定的評価が大勢を占め、適切に学校運営がなされていると教職員が概ね実感していることが伺える。とくに、⑥学校説明会、⑫特別活動、⑭学習指導、進路指導については、回答した教職員が全員 A 評価の回答である。

⑥学校説明会については、年間 20 回以上実施されており、内容の検証も都度実施されている。個別相談の時間も設けられており、中学校での状況を踏まえ、個々の生徒に応じた情報提供がなされている。

⑫特別活動については、年間 80 時間以上実施され、宿泊学習や校外学習、劇団四季観劇やスケート実習など、多種多様な内容となっている。特別活動は、生徒にとって様々な体験の機会であり、学校生活の思い出作りの機会でもあるため、より魅力的なものとなるよう、継続的に内容の充実に努めていかななくてはならない。

⑭学習指導、進路指導については、各チューターが中心となって親身な対応がなされている。通信制高校には何らかの配慮が必要な生徒が入学することも珍しくないが、保護者との懇談を重ね、教職員全員が一体となって、丁寧なサポートを行っている。

一方、課題点も浮かび上がっている。⑪国際教育、⑬部活動活性化および⑮人権教育については、他の項目と比べると、A 評価の割合が低く、改善の余地があることが伺える。

まず、⑪国際教育に関して、本校にはカナダやオーストラリアへの語学研修制度を有しているが、保護者の経済的な事情により多くの生徒の参加には結びついていない。特別活動や外国語科、地歴公民科のスクーリングなど、学校内の教育活動の中で、いかに国際教育を展開していくか、工夫・改善に取り組んでいく必要がある。

⑬部活動活性化については、現状、本校は高校体育連盟に属していないため、運動部設立の土台が整っていない現状がある。通信制の学校ということもあり、最小限の登校日数で通学している生徒も多く、卒業には直接関わりのない部活動への所属を望まない生徒が多い。高校体育連盟への加盟には費用も必要なため、生徒のニーズを確認しつつ、本校にとっての適切な部活動の在り方を検討していく必要がある。

⑮人権教育については、C 評価、D 評価をつけた教職員はいないものの、約半数が B 評価という結果であった。本校では LHR 等の時間を使い、生徒たちに人権について考えさせる機会を設けているが、今後一層の深化充実に向けた取り組みを進めるとともに、教員研修も充実させていく必要がある。

生徒アンケートの集計および分析結果

在籍する全生徒にアンケートを実施し、104名から回答を得た。

回答結果を肯定的評価（AとB）と否定的評価（CとD）に分けて分析した場合、肯定的評価は85.9%であった。生徒の大半が本校の教育内容全般にわたって高い評価をしているといえる。

■ 肯定的評価の割合が80%以上

肯定的評価の割合がとくに高かったのが⑦、⑱、㉑の3項目である。

本校のルールは生徒に十分浸透しており、その指導について納得できるものとなっている。学校はプライバシーを尊重しながら適切に対応をしていると生徒が実感していることがわかる。また、「この学校で学ぶことができてよかった」と多くの生徒が感じており、日々の教育活動が生徒たちにとって満足度の高いものであることが伺える。

④、⑩、⑪、⑫、⑰、⑱の6項目も肯定的評価の割合が高い結果であった。

学習に躓きがある生徒や、支援や配慮を要する生徒に対し、丁寧な指導が行われていることが伺え、本校の特色である特別活動については多くの生徒がA評価をつけており、高い満足感が伺える。施設・設備などの学習環境にも好意的に受け取られているが、継続的に改善に取り組んでいく必要がある。入学前の説明会はわかりやすかったと感じている生徒が多く、ホームページや生徒用ポータルサイト「NCC」に関する項目も評価が高いことから、適切な情報発信ができていているといえる。

一方、やや課題も感じられたのが③、⑤、⑥、⑧、⑨、⑬、⑯、㉒の8項目である。

学習面で不安を感じている生徒は少なくなく、よりわかりやすい授業となるよう、各教員が常に研鑽していく必要がある。また、⑤、⑥については概ね高い評価を得ているが、今後A評価の割合がより高まるよう、この結果を留意しつつ生徒と接していく必要がある。

進路に関する評価は全体と比べA評価の割合が低くなっており、今後は進学や就職に関する情報を教員間で十分共有し、より一層丁寧な進路指導を行えるよう努めていかなければならない。

安全教育や危機管理、SNSなどの情報発信モラルについては、生徒が安心して学校生活をおくるために必要なことであり、あらゆる場面において指導に努めていく必要がある。

■ 肯定的評価の割合が80%未満

①、②、⑭、⑮の4項目が該当する。

国際教育については、各種外国語科目に加え、総合的な探究の時間においても取り組んでいるところではあるが、限られた時間の中、どうしても英語表現・文法に多くの時間を割かざるを得ず、海外の文化などに関する内容を今後どのようにして充実させていくかは、検討を進めていく必要がある。

人権教育については、ロングホームルームなどの時間も用い、指導に努めているところで

はあるが、学校生活のあらゆる場面を人権教育の場と捉え、さらなる充実深化を図っていききたい。

学校生活が楽しいか、落ち着いて学習できる環境かという項目については、今回の結果を教職員が十分認識し、更なる努力と工夫が必要である。

保護者アンケートの集計および分析結果

在籍する全生徒の保護者にアンケートを実施し、102 名から回答を得た。

回答結果を肯定的評価（A と B）と否定的評価（C と D）に分けて分析した場合、肯定的評価は 81.8%であった。生徒アンケートの結果と比べるとやや肯定的評価が少ない結果ではあるが、多くの保護者が本校の教育内容全般にわたって高い評価をしているといえる。

■ 肯定的評価の割合が 80%以上

肯定的評価の割合がとくに高かったのが⑩、⑲の 2 項目である。

生徒アンケートの結果と同様、プライバシーの尊重については保護者も高く評価している。また、説明会のわかりやすさについては、生徒よりも保護者のほうが高い評価となっており、今後、生徒目線の説明に意識を向けていく必要がある。

⑤、⑪、⑰、⑳の 4 項目も肯定的評価の割合が高い結果であった。

生徒アンケートと同様ホームページや NCC での情報発信、ならびに本校の特色である特別活動に充実については、保護者からも高い評価を得ている。また、「この学校で学ぶことが出来て良かった」という項目については、保護者のほうが A 評価の割合が高く、生徒が感じている満足感が保護者にも伝わっていることが伺える。

一方、やや課題も感じられたのが③、④、⑥、⑦、⑫、⑬、⑱、㉑の 8 項目である。

ここに該当する項目は生徒アンケートと比べ、肯定的評価 A+B の割合には大きな違いは無いが、A 評価の割合が低く、B 評価の割合が高くなっている傾向がある。生徒にとっては一定の満足度を感じていることでも、それが保護者まで十分に伝わっていないと思われる。様々な場面において保護者との連携を密にし、情報共有を図っていくことで改善を図っていききたい。

■ 肯定的評価が 80%未満

①、②、⑧、⑨、⑭、⑮、⑯の 7 項目が該当する。

生徒アンケートの結果と比べ、進路に関する項目や情報モラルに関する項目において、評価が低い結果となっている。

進路については、学校掲示や NCC での情報発信、加えて各種進路行事では生徒自身が進路について考える時間を設けているが、目標進路が決定するまで時間がかかる生徒も少なく

なく、保護者としては生徒以上に焦りを感じていることもあるのではないかと推察される。進路指導部ならびにチューターからの早い段階からの働きかけを行い、改善を図っていきたい。

情報モラルについては、今やほぼ 100%に近い割合で生徒はスマートフォンを所持しており、SNS 等による危険性は生徒よりも保護者のほうが感じていると推察される。情報科のスクーリングのみならず学校生活の様々な場面を通じて指導を行っていく必要がある。

全体を通して

■回答総数に対する結果

・教職員 11 名分

A : 76.8% B : 20.5% C : 2.7% D : 0%

・生徒 104 名分

A : 41.6% B : 44.3% C : 10.8% D : 3.2%

・保護者 102 名分

A : 35.0% B : 46.8% C : 14.7% D : 3.4%

京都長尾谷高等学校は長尾谷高等学校京都分校を前身とし、教育システムを継承しつつ令和 6 年度に開校となった学校である。今回の学校評価は開校 1 年目の評価であったが、教職員はじめ、生徒、保護者においても肯定的評価 (A+B) が 80%以上と、全体としては良好な結果であった。

しかし、項目別に見れば課題点も浮かび上がっており、それは前述のとおりである。通信制高校に入学する生徒数は全国的に増加傾向にあり、通信教育の質の向上が強く求められている現在、本校としても 1 つ 1 つの課題に向き合い、その改善に向けて教職員一丸となって取り組んでいかななくてはならない。

また、令和 6 年度より合理的配慮が義務化されたところではあるが、周囲と同じペースでの学習が難しい生徒や、身体的・精神的な理由で思うように登校できない生徒など、本校にも配慮を要する生徒は決して少なくなく、通信教育の制度をうまく活用しながら、個々の生徒に応じて柔軟な対応ができるよう、検討を進めていく必要がある。

令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈教員分〉

回答者数11名

質問	A	B	C	D	分析結果
1	82%	18%	0%	0%	今年度、高等学校の新学習指導要領が全面实施されたが、本校では、これに的確に対応した教育課程を編成し、スクーリング(授業)が実施されていることがわかる。
2	82%	18%	0%	0%	各教員が年間を見とおした教育計画を立案し、授業の充実に努めていることがわかる。
3	64%	36%	0%	0%	教員同士が緊密なコミュニケーションを取り合って連携する中、相互理解に努め、共通意識を持って教育活動を展開していることがわかる。
4	73%	27%	0%	0%	教員と事務職員が緊密なコミュニケーションを取り合って連携する中、相互理解に努め、共通意識を持って教育活動を展開していることがわかる。
5	91%	9%	0%	0%	情報の公開・発信についてはHPだけでなく生徒用ポータルサイト(NCC)、メール配信サービスなど、学校として様々な媒体を有している。それらが適切に点検、更新されていることが教職員の中で認識されており、効果的な運用がなされていると推察できる。
6	100%	0%	0%	0%	各回の学校説明会において、中学生や高校生その保護者に対して、適切な情報が提供されていることがわかる。
7	82%	18%	0%	0%	避難訓練の実施、消防計画の見直しは毎年行なわれ、火元責任者や非常時の役割分担ならびに地域の実情に則した避難計画について、教職員間で共通理解がなされていることが伺える。
8	64%	27%	9%	0%	IT活用能力や情報発信モラルの育成については、「情報」の授業だけでなく、すべての教科や教育活動を通じて、全教職員が一致して推進していかなければならないが、まだそれには至らない部分が残っている。教職員のスキル向上と並行して、ICT環境の更なる整備も必要である。
9	82%	18%	0%	0%	自己や周囲の人々を大切にする意識を高めることができるよう、粘り強い指導が展開されており、今後も教員間で生徒の情報共有を密にし、指導の質を更に高められるよう図っていきたい。
10	91%	9%	0%	0%	学力や生活習慣に課題を持つ生徒が多く在籍しているが、各教科の内容に興味関心を持てるよう、各教員が熱心に授業改善に取り組んでいることが伺える。
11	36%	64%	0%	0%	カナダ・バンクーバーでの語学研修制度や総合的な探究の時間、特別活動、外国語科や地歴・公民科の指導の中で、国外の文化や考え方に触れる機会があるが、生徒への定着はまだ十分ではなく、国際教育の深化には困難さを感じている教員も少なくない。
12	100%	0%	0%	0%	本校では、多種多様な特別活動が提供されている。教員が創意工夫を凝らした、魅力あるプログラムづくりに鋭意取り組んでいることがわかる。
13	36%	27%	36%	0%	本校は高校体育連盟に属しておらず、運動部を設立するための土台が整っていない現状がある。一方、文化部については運動部に比べれば設立しやすい状況にあるが、現状、精力的に活動しているのは音楽部のみにとどまっている。
14	100%	0%	0%	0%	学習指導や進路指導については、生徒の実態やニーズに応じた丁寧かつ継続的な指導が実践されていることがうかがえる。
15	91%	9%	0%	0%	様々な事情を抱え入学してきた生徒に対して、教職員がカウンセリングマインドを持って、生徒一人ひとりに寄り添った丁寧で粘り強い指導が行われていることがうかがえる。
16	82%	18%	0%	0%	特別支援コーディネーターを中心に、支援を要する生徒の情報を集約、管理し、教職員間で共通理解が図られている。個別の学習支援や、放送視聴制度の整備、少人数講座(フォローアップ講座)の実施など、教職員全体で様々な支援体制を設けている。
17	64%	27%	9%	0%	教職員研修については、校内研修として新任教員研修、中堅教員研修、事務職員研修、全校教職員研修等が実施され、また、各教科の授業研究会や実技研修会も定期的に開催されている。 現在、高等学校通信教育の質の確保・向上が強く求められていることから、研修の効果のさらなる向上に向け、各種研修会のテーマや実施方法、実施時期、フィードバックのあり方等について、一層の検討・改善が必要である。
18	45%	55%	0%	0%	11月の人権LHRをはじめ、あらゆる場面を通じて教職員全体で人権教育に取り組んでいるが、人権教育主担を中心に、今後一層の深化充実に向けた取組が必要であると感じている教員が多くいることが推察される。
19	91%	9%	0%	0%	各校の管理職や中核教職員が中心となり、風通しの良い職場環境や報告・連絡・相談体制を構築する中、良好なチームワークを持って学校運営が遂行されていることがわかる。
20	82%	18%	0%	0%	各教員は自身の指導力向上のため、常に自己研鑽の意識を持ち、日々実践を繰り返している。これに満足することなく、今後も引き続き精進することを期待したい。

令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈生徒分〉

回答者数104名

質問	A	B	C	D	分析結果
1	37%	42%	14%	7%	多くの生徒が学校生活にうまく適応していると思われるが、より魅力ある学校づくりをめざしたい
2	25%	44%	23%	8%	校内の学習環境は概ね落ち着いていると思われる
3	34%	54%	9%	3%	学習面で課題を持つ生徒は多いが、前向きに努力を続けていることがうかがえる
4	49%	43%	6%	2%	教員の指導ぶりは概ね生徒に肯定的に受けとめられている
5	48%	40%	11%	1%	どの生徒に対しても分け隔てなく公平に接していることが高評価につながっている
6	42%	46%	8%	4%	電話での問い合わせも含め、教職員の親切丁寧な対応が保護者に安心感を与えている
7	55%	42%	2%	1%	学校生活上のルール等についてはほとんどの生徒は理解、納得している
8	29%	52%	13%	6%	進路情報については概ね理解されているが、発信方法等について更なる工夫が必要である
9	28%	54%	13%	5%	進路相談については好意的に受け取られているが、生徒に寄り添う姿勢がより求められている
10	48%	44%	6%	2%	説明会等は高評価を得ているが、今後もより丁寧に説明し入学者増に確実ににつなげたい
11	57%	37%	6%	0%	学校HPやNCCは認知度が高いが、情報発信ツールとして更なる深化充実をめざしたい
12	42%	51%	5%	2%	学習環境は概ね好意的に受け取られているが、改善に向けて継続した取組が必要である
13	44%	43%	10%	3%	避難訓練等は理解が進んでいるが、生徒の安全につながる取組の充実が求められている
14	17%	42%	32%	9%	Eクラスや海外語学研修のほか、広く世界が学べる授業や特別活動の展開が必要である
15	28%	41%	26%	5%	人権LHRなど様々な場面で人権感覚を身に付けられるよう、更なる取組の推進が必要である
16	30%	51%	16%	3%	ICT機器の活用能力や情報発信モラルの向上に向けた取組の充実が求められている
17	64%	30%	5%	1%	特別活動については本校の大きな特色であり、大部分の生徒が高評価をしている
18	47%	45%	7%	1%	教職員は生徒の状況を的確に把握し、生徒・保護者に寄り添い対応していることがうかがえる
19	50%	46%	4%	0%	教職員は生徒のプライバシーを尊重しながら適切に対応していることがうかがえる
20	46%	42%	10%	2%	本校の特色については概ね理解され好意的にとらえられている
21	53%	42%	3%	2%	多くの生徒が本校での学校生活を肯定的に受けとめ高評価を得ている

令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校評価アンケート結果 〈保護者分〉

回答者数:102名

質問	A	B	C	D	分析結果
1	25%	42%	27%	6%	生徒が学校生活にうまく適応していると、大半の保護者が評価していることがうかがわれる
2	21%	55%	19%	5%	校内の学習環境は概ね落ち着いていると、多くの保護者が評価していることがうかがわれる
3	22%	62%	13%	3%	学習面に課題を持つ生徒が多いが、教員の学習指導については肯定的な意見が多い
4	40%	49%	9%	2%	教員の丁寧な指導ぶりは、保護者に概ね好感をもって受けとめられている
5	43%	47%	8%	2%	いずれの生徒に対しても公平・平等に接していることが高評価につながっている
6	48%	41%	10%	1%	電話対応を含め、教職員の親切丁寧な対応が保護者に安心感を与えている
7	49%	40%	7%	4%	学校生活上のルール等についてはほとんどの保護者が理解、納得している
8	11%	48%	32%	9%	進路情報は概ね理解されているが、発信方向等については更なる改善が必要である
9	17%	48%	28%	7%	進路相談については好意的に受け取られているが、生徒に寄り添う姿勢がより求められている
10	53%	43%	3%	1%	説明会等は高評価を得ているが、今後も工夫改善し入学者の獲得に確実ににつなげたい
11	46%	46%	6%	2%	学校HPやNCCは認知度が高いが、情報発信ツールとして更なる深化充実をめざしたい
12	29%	56%	12%	3%	学習環境は概ね好意的に受け取られているが、改善に向けて継続した取組が必要である
13	26%	56%	14%	4%	避難訓練等、生徒の安心・安全を第一に更なる取組の充実をめざしたい
14	14%	50%	30%	6%	Eクラスや海外語学研修以外にも、世界が学べる授業や特別活動が求められている
15	21%	52%	23%	4%	人権LHRなど様々な場面で人権感覚を身に付けられるような取組の推進が必要である
16	16%	55%	29%	0%	ICT能力や情報モラルは保護者も高い関心を寄せており、深化充実が不可欠である
17	60%	31%	6%	3%	本校の特別活動については、生徒同様、大部分の保護者が高い評価をしている
18	46%	39%	13%	2%	教職員は生徒の状況を的確に把握し、生徒・保護者に寄り添い対応していることがうかがえる
19	52%	44%	2%	2%	教職員は生徒のプライバシーを尊重しながら適切に対応していることがうかがえる
20	37%	48%	11%	4%	本校の特色については概ね理解され好意的にとらえられている
21	56%	35%	8%	1%	多くの保護者が、本校での学校生活を肯定的に受けてめている

Ⅳ 令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校関係者評価 概要

(名称) 名称を京都長尾谷高等学校学校関係者評価委員会とする。

- (目的)
- 1 京都長尾谷高等学校の教育活動の一層の向上に向け、学校と連携しながら取り組む。
 - 2 学校関係者評価を実施し、学校の教育活動を支援する。
 - 3 校長の求めに応じ、学校の運営に関し意見を述べる。

- (活動)
- 1 委員の任期は4月から翌年3月までの1年とする。
 - 2 委員の再任は妨げない。
 - 3 会議は校長が主催する。会議を開催できない場合は意見等を聴取する。

(事務局) 事務局を京都長尾谷高等学校に置く。

(構成) 令和7年度委員 (敬称略)

- | | |
|-------|----------------------|
| 正木 仁 | (長尾谷高等学校 前校長) |
| 大内 維人 | (立命館大学 教職教育推進機構 元講師) |
| 岩見 晃宏 | (京都長尾谷高等学校同窓会 会長) |
| 井出 光明 | (藤森学区防犯推進会 会長) |

V 令和6年度 京都長尾谷高等学校 学校関係者評価委員会の意見

1. 「学校運営」評価

- ・教職員が互いに緊密な連携とコミュニケーションをしっかりと取りながら、質の高い学校運営が実現されていることが伺える。学校説明会の充実やホームページ等を通じた情報発信により生徒・保護者の信頼を得ている点は高く評価したい。
- ・教職員が学校経営に参画しているように思います。独立校として、より一層連携を密にして、生徒ファーストの学校経営を期待しています。
- ・教職員による授業の充実や、教員と職員の緊密な連携により、生徒にとって質の高い学校運営が実現されていることが伺える。特に、学校説明会や学校ホームページ等の充実に対する教職員の意欲の高さ、生徒・保護者からの満足度の高さなどから、丁寧な情報発信によりよって、生徒・保護者の理解と信頼を得ている点は非常に素晴らしい取り組みであると感じた。
- ・生徒に対して公平に平等に接しておられることが高評価につながっていると思います。

2. 「教育内容・教育の課題」評価

- ・学習の躓きがある生徒に対して親身な対応がなされており、それが生徒や保護者の満足度に繋がっている。今後、ICT活用などの教員のスキルアップを図っていただき、さらに充実した教育活動が展開されること期待する。
- ・国際理解教育の充実やICT活用能力の育成について、生徒の興味・関心が多様化する中、研修や教科学習に留まらない粘り強い指導をお願いします。
- ・特別活動に関しては教員・生徒双方から高い評価を得ており、特色ある教育の一環として高く評価できる。アンケートおよび各種分析の結果から、学習面に課題を抱える生徒の割合が比較的高い状況が見受けられる。そのような中、IT活用能力の育成、国際教育の推進、人間性を培う教育の充実に取り組むことには困難が伴うと考えられる。しかしながら、消極的な気質の生徒や集中力の持続が難しい生徒にとって、ITを介した学習の場が参加への足がかりとなり得ることから今後の展開が期待される。
- ・教員の丁寧な指導ぶりは保護者に概ね好感をもって受け止められておられると思います。

3. 「生徒指導・支援」評価

- ・生徒・保護者にとっても納得感のある内容で生徒指導上のルールが定められ、各教員が一貫した指導をされていることは素晴らしいことである。また、様々な支援が必要な生徒が少なからず在籍されており、きめ細かな指導体制をさらに深化・充実させていってほしい。
- ・教職員が、丁寧に生徒に寄り添った指導・支援を行っていることが窺えます。進路指導の実践を保護者にどのように発信するかを工夫する事で、保護者の不安が軽減されるのではないかと思います。
- ・発達障害、学習障害、精神疾患に加え、家庭環境に起因する課題の複雑化が進む昨今、通信制・単位制高校に求められる社会的役割は今後一層増大していくものと考えられる。そんな中、多様な背景を持つ生徒が多数在籍する中、教職員間における共通理解の醸成を図りながら、丁寧な対応がなされている点は高く評価される。今後一層の対応力の強化が期待される。
- ・徐々に生徒さんから挨拶をしてもらい、町内の皆さんも勇気もらって生徒さんを応援していこうと思います。

4. 「教員研修・資質向上」 評価

- ・不登校生徒は増加の一途をたどっており、通信制高校が担う社会的役割を果たしていくためには教職員一人一人の資質向上が不可欠である。研修に参加したらその成果を皆で共有するなど、効果的な研修制度構築に努めてください。
- ・人権教育等について教職員が更なる深化充実を望んでいる事が窺え、連携・協力の意識が高いと感じました。
- ・教職員の研修体制の充実や資質向上に向けた取り組みは、適切に実施されている様子がうかがえる。今後のさらなる展開により、課題を抱える生徒を含む多様な生徒への理解が一層深まり、より効果的な教育内容の提供と、適切な生徒指導の実施が期待される。

5 ・「総括」 評価

- ・教職員が連携しながら丁寧な学校運営がなされており、それが生徒・保護者の高い満足度に繋がっているといえる。国際教育や人権教育などの課題もあるが、全体通して質の高い教育活動がなされており、今後も社会のニーズに応えられる学校として活躍に期待したい。
- ・通信制高等学校への期待が高まっている中、単に卒業資格の取得ではなく、多様化する生徒に寄り添った教育を実践されていると思います。京都長尾谷高等学校の更なる発展を期待しています。
- ・生徒の特性に起因するさまざまな課題に対して、教職員が連携しながら丁寧に対応されている点は、学校としての大きな強みであり、高く評価されるべき取り組みである。また、学校説明会の工夫をはじめ、学校生活におけるルールの明確化、生徒指導、特別活動の充実、さらにはNCC等を活用した情報発信など、多岐にわたる活動が生徒・保護者から高い評価を得ていることは、教職員の皆様の熱意と尽力の賜物であり、本校の優れた特色として評価されたい。
- ・先生が授業が終わったら生徒の見守りに必ず出ておられるのを見て、町内の人たちも京都長尾谷高等学校を応援していきたいです。多くの生徒、保護者が本校での学校生活を安心して送れるよう、方針を貫いてほしいと思います。

6. その他、今後の学校運営についての意見

- ・すでに実施されているかもしれませんが、学園祭や特別活動等を通して地域とのコラボレーションを通して地域貢献を行うことで生徒の良い面が発揮できるように思いました。
- ・不登校経験のある生徒と活発な気質を持つ生徒が共に通学する、多様性豊かな教育環境において、それぞれの背景や個性を尊重した教育が推進されている。この取り組みは、若者の多様化の真の実現に向けた先導的な役割を果たしており、高く評価すべきものである。多様な特性を持つ生徒が安心して学び、自らの可能性を模索できる環境は、極めて高い教育的価値を有している。一方、卒業後の社会的自立に向けた支援体制の整備は、今後ますます重要性を増していくと考えられる。特に、発達障害や精神障害、児童養護施設等の社会的擁護、ヤングケアラー、虐待、困難さのある家庭環境の影響を受けているなど、特別な配慮を必要とする生徒への理解と支援については、さらに充実が期待される分野である。学校全体として、教育面・支援面において柔軟かつきめ細かな対応がなされていることに深く敬意を表する。今後もこうした取り組みが継続的に深化していくことを、心より願う。
- ・今の方針で先生と保護者の連携を密にして、ますます生徒が楽しく勉強できる学校となるよう願っております。